

1. 調査研究概要

背景

コロナ禍により子どものメンタルヘルスに問題が生じており、子どものウェルビーイングの脅威となっていることが明らかになっている。そこで**コロナ禍のような予測不可能な困難の中においても子どものウェルビーイングを達成できるよう、「レジリエンス（困難な状況に適応して回復する力）」に着目した調査を企画**

本調査研究の目的

コロナ禍の中においても“ハッピー＆レジリエント（Happy and Resilient）”な子どもを育むための環境のあり方を、家庭、園・学校、国・地域社会の3つの環境側面から明らかにすること

調査概要

調査対象：5歳（園児）または7歳（小学生）の子どもがいる母親

参加国：日本、中国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ（アジア8か国でCRNと協力関係にある研究者と共同で実施）

有効回答数：5歳（園児）の母親 1,973名（全8か国）

7歳（小学生）の母親 1,372名（中国、シンガポールを除く6か国）

調査方法：アンケート調査（オンライン／質問紙）

調査時期：2021年8月～11月

※ 国際比較を想定し、対象者の属性が各国でなるべく揃うよう配慮。「都市部および近郊に住む中流層」と指定。本資料内の分析にあたっては、回収されたローデータをそのまま使用している

1-2 8か国における調査の概要

参加国	日本				中国				フィリピン				マレーシア			
調査時期	2021年9月-11月				2021年9月				2021年8月-9月				2021年9月			
調査方法	オンライン／質問紙				オンライン				オンライン				オンライン			
有効回答数	5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親	
	246		114		264		0		218		202		250		250	
*子どもの性別 (%)	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
	45.1	54.9	50.9	48.2	52.3	47.7	－		46.3	53.2	47.0	53.0	47.2	52.8	50.4	49.6

参加国	台湾				インドネシア				シンガポール				タイ			
調査時期	2021年9月				2021年9月				2021年9月-11月				2021年10月			
調査方法	質問紙				オンライン				オンライン／質問紙				オンライン			
有効回答数	5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親		5歳児の母親		7歳児の母親	
	260		251		416		335		136		0		183		220	
*子どもの性別 (%)	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
	48.8	50.0	50.2	49.0	50.0	50.0	51.6	47.8	50.7	49.3	－		50.8	49.2	51.8	48.2

*子どもの性別をたずねる質問については無回答があった。

☐ ウェルビーイング：

心身の良好な状態、幸福。

☐ 本調査で使用したウェルビーイングの尺度：

本調査では、QOL（Quality of Life＝生活の質）を広く測定できるように開発されたKINDL尺度（Ravens-Sieberer & Bullinger開発）を使用。

「身体的QOL」「心理的 QOL」「自尊感情」「家族関係の QOL」
「友達関係の QOL」「日常機能（学校や園）」の全24項目により構成される。
5件法を用い、最低得点は24点、最高得点は120点。

☐ レジリエンス：

困難な状況に適応して回復する力。

☐ 本調査で使用したレジリエンスの尺度：

PMK-CYRM-R尺度（カナダのResilience Research Centre開発）を使用。

「子ども個人に関わる項目」と「養育者等に関わる項目」の全17項目により構成される。

5件法を用い、最低得点は17点、最高得点は85点。

■ レジリエンスとは、困難な状況に適応して回復する力のこと

立ち直り力、精神的回復力、しなやかな強さ、折れない心、などの表現もなされる。

「心の強さ」には下記2種類ある。

- ・「どんな逆境も跳ね返す屈強な抵抗力、ストレスの影響を受けない」→ハーディネス
 - ・「逆境にあってもストレスを受けても柔軟な心持ちで対応し立ち直る」→レジリエンス
- 本研究はハーディネスではなくレジリエンスに着目して実施した。

■ レジリエンスには、主に2つの側面がある

- ・ 逆境において：災害や病気からの回復、立ち直り
- ・ 日常において：日々降りかかる苦境やストレスからの回復、立ち直り

■ 日本においてレジリエンスが注目されたきっかけ ※いずれも2011年

- ・ 教育の文脈において、OECDのPISA調査で「レジリエントな生徒（社会経済的背景が低いにもかかわらず良い成績をあげる生徒のこと）」という言い方がなされたこと。
- ・ 東日本大震災以後の災害復興の文脈で、「レジリエンス」という言葉が広く一般に用いられるようになった。

■ レジリエンスはOECDの“Educating 21st Century Children（21世紀の子どもたちの教育）”の中で、21世紀を生き抜くために必要なスキルとして、社会情動的スキルやデジタルリテラシーと同列で語られている。

Educating 21st Century Children *Emotional Well-being in the Digital Age*

(OECD's Centre for Educational Research and Innovation, Oct. 1, 2019)

https://www.oecd-ilibrary.org/education/educating-21st-century-children_b7f33425-en

●基本属性

- Q2 子どもの基礎情報
- Q3 登園登校状況
- Q5 学校の成績
- Q21-① 家庭の基礎情報

●コロナに関わる状況

- Q1 コロナに関わる状況、
母親のコロナ意識・不安感

●子どものレジリエンス・ウェルビーイングの状況

- Q6 子どものレジリエンス
- Q7 子どものウェルビーイング

●子どもを取り巻く環境＜母親の養育態度・意識＞

- Q8 母親の養育態度
- Q16 母親の子育て意識
- Q17 母親が子育てで力を入れていること
- Q20 母親の生活満足度

●子どもを取り巻く環境＜子育てサポート＞

- Q4 保育・教育（によるサポート）の状況
- Q18 家族（お手伝いさん等含む）との
家事育児分担
- Q19 配偶者と子どもの関係、夫婦関係
- Q21-② 子育て支援者

●子どもを取り巻く環境＜子どもの日常生活・遊び・デジタルメディア活用＞

- Q9 子どものデジタルメディア活用実態
- Q10 子どものデジタルメディア活用時の保護者の関わり
- Q11 子どものICT活用に対する母親の抵抗感のコロナ禍前後での変化
- Q12 子どもの日常的な時間の使い方：遊び、デジタルメディア活用等
- Q13 子どもの日常的な時間の使い方：習い事等
- Q14 コロナ禍前後での時間の変化：遊び、デジタルメディア活用時間
- Q15 子どもの遊びの状況